



横浜陶芸友の会だより

第 165 号
平成 28 年
7 月 1 日発行

《 総会報告 》

5 月 14 日 16 時半より風薫る爽やかな日、13 名の会員が集まり、各議案についての報告と審議を行いました。

◎ 会長挨拶

◎ 議長・書記の選出

◎ 議事

○ 平成 27 年度事業報告

平成 27 年度会計決算報告・会計監査報告

○ 平成 28 年度事業計画

○ 平成 28 年度会計予算

◎ 役員の選出と改選

◎ その他

第 40 回作品展（2019 年）の計画

皆様ご多忙のようで、出席者が少なかつたのが残念でした。

次回役員会の予定

8 月 27 日（土）18 時 30 分。杉田地区センター

総務部長 池見

事業部

平成 27 年度 作品展（第 37 回作品展）

平成 28 年 1 月 12 日（火）～ 17 日（日）6 日間 JR 東神奈川駅近くにある「かなつくホール」にて恒例の「友の会作品展」を行いました。

（入場者数） 868 名 前年比 113 名増

（出品者数） 35 名 前年比 5 名減

（出品点数） 473 点 前年比 107 点増

（特設コーナー課題） 抹茶茶碗

（懇親会） 「Kudoata 食堂」 20 名参加

出品者数は前年を下回りましたが、出品点数、入場者数とも前年を上回りました。今年度も多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

平成 28 年度

第 38 回作品展 今年も来年年明けに作品展を計画しております。

場所 第一希望「かなつくホール」

第二希望「みなとみらいギャラリー」
詳細が決まり次第ご連絡します。

今年の特設コーナーの課題は「湯呑み茶碗」です。
事業部 鍋島

広報部

平成 27 年度活動実績

1、「横浜陶芸友の会便り」

4 月号、7 月号、11 月号 3 回発行
「私の一品」作品展での気になる作品の作者にインタビュー ほか

2、横浜陶芸友の会ホームページ 4 月、7 月、11 月 3 回アップ

平成 28 年度活動計画

1、横浜陶芸友の会便り年 3 回発行予定
するも、場合によっては『会からのお知らせ』に変わることもあります。

2、横浜陶芸友の会ホームページ
当面は継続、適宜アップします。

広報部 吉良

平成 28 年度専修部事業

『専修部焼成会 粉引 終わる』

恒例の焼成会、今年のテーマは「御本手粉引」です。日ごろ粉引に挑戦してみたいと思っても素地土や化粧土さらに焼成方法などクリアーしなくてはならない課題があり敷居が高いのが実情です。そんなこともあつてか参加者は、昨年よりも7人多い19人でした。粉引への魅力や関心の強さを感じられました。

特に今回は専修部長の井上さんの工房（ガス窯、作業場等）を利用していただくことになりました。また、例年焼成会は9〜10月に実施してきましたが、この時期は都合により窯が使えなくなるため今年は5月になりました。

日程と主な内容

5月8日(日)

作品受付と化粧土の生掛け（午前10時と午後1時の2回に分散）

○ 参加者 19人

○ 作品点数 90点

○ 粘土重量 27.25kg

この日は参加者の多くが、井上さんご用達の赤土を分けてもらって制作した生乾きの作品を持ち込み、それに各々が化粧土（これも井上さんのブレンド）を掛けました。生掛けの

ため、乾燥させすぎたために折角の器が形崩れしてしまつたものや、揃いの方形皿6点とも縁や角に亀裂が生じてしまつたものなどがありました。皿の方は後日、井上さんが濡れタオルに包んで成形しなおし生掛けした結果、見事な粉引皿に変身しました。

5月22日(日) 釉掛け（同じく午前、午後に分散）

この日は、この間に素焼きしていただいた作品の表面をペーパーやすりで調整してから各自で透明釉を掛けしました。

6月19日(日) 作品引き渡し（午前11時全員）と会食会 待ち望んだ作品との対面日。どの作品にも見事に淡紅色の斑点や、中には器の内側にリング状の紅色が表れており、どなたも自分の作品を手にしながらか満足そうなお笑みに包まれていました。至福の瞬間です。その様子を見ながら井上さんもニコニコ顔、同時に無事責任が果たせたといい安堵感でホツとしていたのではないのでしょうか。

この後、全員で工房近くのファミレスで昼食会。食べながら飲みながら、出来上がった作品の中で気に入ったものを見せながら一人ひとりが思いを語りました。また、井上さんから今回の「御本手」に纏わる苦労話も話してくれました。一口に御本手といっても、その表れ方は本焼きでの焼成タイミングによ

て、「紅斑（こうはん）」と「半使（はんす）」の2種類に分かれ、前者は主に薄紅色で輪郭がぼやけた大き目の斑点に対し、後者は色が濃く小さ目の斑点が集まっている特徴です。

今回は、その中の紅斑を狙って950度から1180度まで還元焼成し、そのあと酸化に切り替えたということでした。

ご自分で挑戦なさりたい方は、ぜひ井上さんに詳しく聞いてみてください。

いずれにしても、今回の「御本手粉引」の成功には研究熱心な、しかも参加者の知らないところであれこれと配慮していただいた井上さんのおかげであり、全員が心から感謝の拍手を送りました。本当にお疲れ様でした。

専修部 田村



5/22 釉掛け時

陶陶さん



第 87 号

あかほし



6/19 完成引渡し作品



6/19 昼食会風景

私の一品

加瀬 ヒサ子

昭和55年、川崎中原陶芸研究会の会員でした。講師 小嶋章光先生（板谷波山の孫弟子）のもと「彩磁」と言われたこの器を習作しました。私 52歳でした。



編集後記

今号編集作業たけなわの頃、私事で編集作業に参加する事ができませんでした。でも、こうして繋げることができました。有難うございます。

信岡

急遽、信岡さんのピンチヒッターをすることになりましたが、なかなか大変な作業。出来映えはどうでしょうか？

大日方

私のパソコンの環境が変わり広報員との編集作業のやり取りがトンチンカンになり、部員の皆様に迷惑をかけました。一つにはウインドウズのバージョンが勝手にウインドウズ10に変わり初歩的な操作が分からなくなりました。二つにはタブレットに変えたところ操作キーが敏感になり、意図しない入力になって、データが何処かへ行ってしまい、作業が出来なくなり、これらが編集作業時に重なり実質何も出来ませんでした。頭が回らなくなり、手も指も言う事を聞いてくれません。

吉良

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより 第165号

(平成 28 年 7 月 1 日発行)

発行人 横浜陶芸友の会

会長 高橋 光男

編集責任者 広報部長 吉良 謙